

三島 龍澤寺訪問の記

静岡県三島市に龍澤寺という寺があることを知ったのは60年ぐらい昔になるかもしれない。

子どもの頃に父親からしばしばこのような言葉を突きつけられたことがある。

「おまえは落ち着きがなく、集中力に欠ける。そのようなことではいけない。三島に龍澤寺というお寺があって、そこに中川宋淵という立派なお坊さんが居る。このお坊さんに預けて少し鍛えてもらう必要がある」結果としてそれは実現することはなかったが、この寺の名前は記憶に残った。父と中川宋淵師とは俳句のつながりがあったようだ。

大人になってから「一度どんなところか見に行ってみようかな」と思うことが何度かありはしたが、なかなかその機会がなかった。

昨年、知人から送られてきた一冊の本を読んでいたら、その中にこのお寺のことが書いてあった。時代を動かしてきたような各界の著名な方々が住職の山本玄峯師の元へ通っていたということ、玄峯師の後任の住職が中川宋淵師であることがわかり、一層身近な感じがしてきた。一度この寺を訪ねてみたいと思う気持ちが再び盛り上がってきた。

旅の前に、少し寺のことについて調べてみた。

寺の正式な名称は、臨済宗妙心寺派圓通山龍澤寺。開山は白隠禅師で、宝暦10年に高弟東嶺円慈により現在の場所に伽藍が建てられた。その後荒廃が進んだが、大正4年に山本玄峯師により再興された。

箱根外輪山が西側に長い裾を引いて三島の町に落ちる寸前の海拔130m余の場所にある。

東海道線三島駅からの交通機関が不十分な場所のようなので、車で出かけることにした。

◆Yahoo 地図 龍澤寺・・・ <http://yahoo.jp/SorBci>

平成28年12月15日(木)

天気は快晴。朝のラッシュが終わった頃を見計らって9時過ぎに出発。

千葉北ICから入り、湾岸・首都高速経由で東名自動車道へ。海老名サービスエリアで小休止をとり、裾野ICで降りて三島の町へ。日大関係の学校が建ち並ぶ町で左に曲がり箱根外輪山の裾野の傾斜に入り、沢地という集落からやや山あいに入る所に寺を示す標識が現れた。

突然城壁を思わせるような石垣が現れて驚いたが、これが龍澤寺の正面。後ろに山を背負い、杉を中心とした古木に囲まれた静寂という言葉がぴったりするようなお寺。

石垣の左端にある小道を進むと暗い林の中に苔むした石段が現れ、石段の上の方に山門が見えてきた。

石段をゆっくりと上り山門に辿り着くと、門の左側には「無門関提唱」、右側には「座禅道場」と書いた板が打ち付けられている。人の気配がない山門をやや緊張の面持ちで潜ると、美しく掃き清められた庭が迎えてくれた。青い空に鮮やかな白い雲、日陰に入るとぶるっとするが、陽があたるところは温もりが感じられる気持ちの良い午後のひととき。重厚な六角の鐘楼が目の前に現れた。塵ひとつない庭には、自分の足音の他には何も聞こえてこない。

大横綱の土俵入りを見るようなどっしりと構えた本堂の鬼瓦には「龍」の文字が刻まれていて、微塵の揺るぎもない佇まい。何やら得体の知れない空気が支配していて、一步一步脚を運ぶごとに心が洗われるような感じがする庭である。ただただ空気に圧倒されて歩いているうちに、右手の奥に座禅道場を見つけた。道場の入り口の板木が深くえぐれるように窪んでおり、長い歴史とここに来た多くの人々の心がうかがえるような気がした。父に言われたとおりにこの寺に来たら、この道場で座禅を組むことになったのだろうと思うと不思議な気分になった。百人以上入れそうな道場には誰も居なかったので、数歩踏み入れて中の空気を戴いてきた。本堂を挟んで座禅道場とは反対側の奥に庫裏が建ち、風呂場と思われる建物の前の庭に筵に入った大根の银杏切りが干してあった。



一巡して本堂の正面に戻ってきたら、本堂脇の入り口に一匹の猫が現れて腰を下ろした。暖かな日差しに腰を落ち着けたのだらうとは思いますが、威厳のある表情で世間を睥睨するような構えが妙に神々しかった。土間の奥には小さな鐘が置いてあり「来者三打」と書いた木の札が下がっていた。



庭の片隅の日だまりで、三和土に腰を下ろした若い僧侶が昼寝をしている光景が猫の威厳と対称的で面白かった。

杉林を通り抜けて下山しようと思ったら、林の隅に炭焼き窯があった。

静寂の中に身を置きひとときを過ごしたら体が軽くなったような感じがしてきた。緩やかな坂道を下って車を停めた場所に戻ると、香貫山から大平山に至る特徴的な稜線を手前に置いて、伊豆半島の山並みが大きく広がって視界に入ってきた。

箱根外輪山の裾野を更に上ってみると、キャベツや大根を中心とした野菜畑が広がり、その中に点々と大規模な住宅団地が広がっている。三島の町のもうひとつの顔を見たような気がした。

町に下りて三嶋大社を覗いた後ホテルにチェックイン。夜は高校時代の友人の T 君と 20 年ぶりの再会を楽しみ、痛飲。翌日は、三島の高原野菜を買い沼津港で新鮮な魚を味わった後、30Km ほど西にある生まれ故郷の町を散策してから帰宅の途についた。

青空と富士山と愛鷹山が終日目を楽しませてくれ、冬の駿河路らしい素晴らしい旅が出来た。

以上

